立神峡だより

今年も水難事故防止の対策は万全

夏休みには多くの観光客が涼を求めてやってきます。そこで問題となるのが水難事故です。過去には痛ましい事故がありましたが、ここ５年間は事故は起きていません。監視カメラや定期的な放送など、事故防止の成果が出ていると思います。しかしながら、油断は出来ません。今年も例年以上に浮輪や救命道具を備えて万全の対策を講じたいと思っています。その中で６月２８日（金）には、氷川町主催による関係各所（県庁･学校･消防・警察・氷川ダム・氷川町）の関係者が集まり水難事故防止協議会の会議を開きました。７月１６日（火）には立神熊野座神社において氷川町観光物産協会の主催の安全祈願祭が行われました。皆の願いは一つ、二度と事故は起こさないという一語に尽きます。いかに未然防止を図るかが重要です。

ブイの設置や啓発看板を多用してやりますが、近年はマナーの悪さが目につくこともあります。事故防止のため、スタッフ一同力を合わせて取り組んでいます。

カブトムシの成虫も準備完了

立神峡では今年は例年以上にカブトムシの羽化が増えており、成虫も数多く飛び交っています。特に、チップ作業をした腐葉土の中にたくさんの成虫がおり、現在約７０匹を管理棟で養育しています。夏休みの子どもたちのお目当ては何といってもカブトムシの捕獲やクワガタの採集です。宿泊の子どもたちにプレゼントしたいと考えています。この事業をもっと拡大することが環境学習の拠点にふさわしいと思います。今年の夏も子どもたちの感動する姿が楽しみです。

八代消防署のレスキュー訓練

八代消防署にはレスキュー隊がありますが、毎年この時期には潜水調査や事故の場合の救護要領の確認や各種救助訓練を立神峡で行われております。

また、鏡消防署も同じように訓練を実施して、いざという場合に備えた実戦的な訓練を行い公園側にしても心強い限りです。当初は、少雨のために水かさが少なく、水中には落ち葉などが堆積し、少し潜るだけでも泥が跳ね上げられ捜索には非常に困難を伴うとのことでした。ようやく雨が降りその心配もなくなり捜索はしやすくなりましたが、そうならないことを願うだけです。

【お問い合わせ先】立神峡公園管理棟
☎ 62-1543　FAX62-1546（8:30～17:30 火曜定休日）

ホームページ
http://tategami-camp.com

町民文芸

短歌

初孫の結婚式に招ばれるも
行くや否やと遠きに迷う
北野津　宮本　末秋

垂乳根の母の湯呑みを現し世の
御魂と思ふ注ぐ香露かな
北野津　井田　道寛

梅雨入りのニュース時どき流れおる
梅も辣韮も漬け込み終る
西野津　古崎スエノ

青紫蘇のドレッシングたぶなぶ掛け
夏の野菜の舌ならす
西野津　古崎　栄子

目のかすみ耳の聞こえと我を打つ
孫子の笑顔は薬となりて
南鹿野　尾崎　京子

息子にも孫にも本を見せたくて
わが書を三冊買ったの便り
西上宮　村内　一誠

地震禍に煉割れし壁美しく
直せし人に光る玉汗
吉本　髙橋　澄子

若き日々無駄に生たか空見れば
無心に見えし燕数匹
上鹿島　前村　俊子

俳句

ドアノブに守宮と触れて飛び退きぬ
北野津　宮本　末秋

河童泳ぐまぼろしを見し夏の川
北野津　井田　道寛

初取りやゴーヤ鮮やか手に重し
西野津　古崎スエノ

枕元青田にひびく青蛙
南鹿野　尾崎　京子

のど自慢ツバメ飛び交ひおどりをり
町　香山菊童子

果てし無夏空深し青田かな
西野津　古崎　栄子

豪雨にも耐へて伸びゆく青田かな
吉本　髙橋　澄子

新緑やわが書発刊悦に入る
西上宮　村内　一誠

田植機の音軽やかに緑りなす
上鹿島　前村　俊子

詩

孫の絵が特別賞と弾む声スマホ
抱きしめ（親娘）馬鹿ちゃんりん
うれし泣き
東上宮　H，O

投稿について

・楷書で記入し、漢字には全て読みがなをふって投稿してください。
・内容確認する場合がありますので電話番号を明記してください。
・**毎月8日必着**
※掲載は1人あたり短歌・俳句・詩のそれぞれ一句ずつとなります。
※遅れて投稿された場合掲載できない場合があります。あらかじめご了承ください。

投稿先

〒869-4814 氷川町島地642番地
企画財政課 企画係☎52-5850

漱石と家族と「漱石山房の人々」

～手探りで～ Dernier Memoir（デルニエ メモワール）

法道寺　本田　花風

読者の感想から、再読して漱石の女性の描写に新しい発見があったという「三四郎」の美禰子をはじめ、漱石は女性を一歩引いた場所から観察して描くように感じた。だが、「それから」では三千代の心情を女性の立場になって代弁している。「現代以上に女性のことを考え、性の違いを超えてひとりの人間として生きる道を表現している。頑固そうな漱石だが、本当は優しく、人間を愛した人だったのではないか」

切り抜きを利用するのも限度がある。　せごどん、今宵はこの辺でよかろかい。

漱石のある一面を、「三四郎」から。熊本の高等学校を卒業した三四郎が東京の大学に入学する東京行の列車の中、女と知り合う。二人とも名古屋で途中下車して一泊することなる。女の申し出で一緒の宿屋に、しかも同じ部屋に泊まることになる。成り行きと言いながら、出来すぎのようにも思える。

しかし、三四郎はびびってしまい何もできずに夜明けを迎えた。そして別れを迎えた場面、『三四郎は革鞄と傘を片手に持ったまま、空いた手で例の古帽子を取って、ただ二言、「さようなら」と云った。女はその顔を凝と眺めていたが、やがて落付いた調子で、「あなたは余っ程度胸のない方ですね」と云って、にやりと笑った。三四郎はプラットホームの上へ弾き出された様心持がした。車の中へ這入ったら耳が一層熱りだした。』　金之助にも三四郎と同様の青春があっただろうその一場面です。